

建設中の木造特養施設を公開

木造施設受注で設計事務所と連携強化

ポラテック



共同生活室は化粧タルキが印象的

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）は、現在建築中の「特別養護老人ホーム別邸曉（仮称）」（同加須市）の構造見学会を実施した。今回の見学会は、同社木建推進課の施工請け受注を目指したもの。同社の高い施工力を生かして木造の知識・技術をサポートすることで、設計事務所との共存を図る。

同施設の敷地面積は8017・43平方メートル、延べ床面積は4552

- ・09平方メートル（1374
- ・25坪）
- ・ユニット型
- ・100床の特別養護老人ホームで、入居スペースは約12平方メートルとなっている。

工期は今年12月25日までを予定している。構造は一部鉄骨造の木造軸組工法で、平屋建て一部2階建ての準耐火構造。部材は、土台に

檜のムク材、柱のムク材、柱

・梁にはRウッドの集成材、化粧タルキはSPFと一部米松を使用している。

構造の特徴は、共同生活室の天井に配された化粧タルキで、木材が現しで使われており、開放的かつ温かみのある雰囲気を出している。化粧タルキは部材同士を接合した台形のデザインで、意匠性も高い。

木材加工は、機械での対応が難しい部分を手加工で行っており、

同社の大工職人の技術力も発揮されている。

同施設は、同社が手掛ける非住宅木造物件では最大規模。同社は同施設をきっかけに、受注案件の増加を期待している。

2016年度の受注棟数は設計・施工・施工合わせて14棟。17年度は18棟を計画している。同社は木造施設として、特養などのシルバース系、学童施設などのチャイルド系、医院などの医療系を3本柱として取り組んでいるが、今後はこうしたジャンルにとらわれない施設も手掛け、木造物件の可能性を探っていく。